

# ひかりと いのちの なかま

光寿院住職 酒生文弥

## コロナパンデミック

—自然？からの警告—

### 世界規模疫病

世界中がコロナウイルスに戦々恐々とおののいています。感染症はその罹患する規模において、エビデミック(風土病)、エビデミック(疫病)、パンデミック(世界的な感染爆発、アウトブレイクとも)の3つの呼称で分類されますが、コロナは紛れもないパンデミックです。若

い頃、コロナは憧れの名車の名前でしたが、今や悪魔のような響きです。

習近平の通訳も務める中国人大学教授からの話では、現実の感染者は100万人を超えており、死者も10万を越えたそうです。武漢のみならず湖北省の主要都市は人民解放軍や武装警察によって堅固に閉塞されている由。この疫病が

はありませんが、今回の事態を戦争目的の戦術と捉えることはできると考えます。

『戦争論』でクラウゼヴィッツは、「戦争は、外交以外の手段(武力)による国家(ないし大きな利益団体)目的の追求」と定義しています。戦争に勝つ計画をストラテジー(戦略)、戦闘に勝つ計画をタクティクス(戦術)といいます。もしコロナが戦術であるとすれば、戦略目的は何でしょうか。世界的な人口削減・中国共産党政権打倒(中国の民主連邦化)・世界経済大変動による莫大な利得。空想であれば良いですが。

### スペイン風邪100年

1918年第一次世界大戦中にアメリカ発のパンデミックが瞬く間に世界を席巻。当時約20億の人口の7割が感染し5000万人から1億人が亡くなった「スペイン風邪」です。新ウイルスと確認されたのがスペインなので、この名で呼ばれています。コロナでは、高齢者・有病者が一番危ないとされますが、スペイン風邪は、若い世代の死亡率が高く、徴兵できなくなると大戦終結が早まった

一刻も早く終息に向かい、発源地である武漢および周囲に暮らす皆様の無事息災を、ただただ念じ申し上げます。

### 自然十人為？

コウモリが病原宿主とされていますが、武漢は有名な軍事都市であり、多くのハイテク先端企業と共にウイルス研究所もあります。ウイルスは生命(有機物)と非生命(無機物)両方の性質をもつ生命史最古の存在で、わずか20万年前の現生人類(ホモ・サピエンス・サピエンス)登場のはるか以前から地球上に存在しています。ABC(原子・生物・化学)兵器は第1次世界大戦以前から構想されていて、第2次世界大戦では3つとも使用されています。武漢で生物兵器の研究開発が進められていたことは事実です。人為的な事故でこれが漏洩してしまった可能性はかなり高い筈です。少なくとも自然に土足で踏み入り何でも食べる人類、大きな目でコロナ禍が人為であることは事実でしょう。「埋蔵資源」を貪欲に探査するあまり、何億年も昔の地層を露呈させ、普段は鉱物状態にあるウイルスが甦ったとい

### 天国と地獄を分かちもの

仏典にはとても判りやすい天国・地獄の比較が譬えられています。会場(この世)はともに同じく豪華絢爛な宴席で、全員の目の前に垂涎のごちそうがあります。ただお箸がすぐく長いのです。長すぎる箸を活かしてお互いの口に食べ物をいれあって談笑するのが極楽。自分の口だけにほおぼろうとして餓鬼と化している会場が地獄です。マスク・消毒剤から果てはトイレットペーパーまで買い占めてしまった日本人。一体どちらに向かっているのでしょうか。

### 一切衆生を摂取する 宇宙の願い

「十方微塵世界(宇宙空間の目に見えない微小なまでの)の念仏の衆生(魂の向上を念ずる生きとし生けるもの)をみそなわし、摂取して捨てざれば(一つ残らず救うので)阿弥陀(自分に届いているはかりきれないひかりといのち)と名付け奉る」仏典にそう説かれています。胎児の命を母親の免疫の攻撃から守ってくれているウイルスがあるそうです。善玉菌・悪玉菌など

う説さえ、さもありなんです。

### サイバー戦争のただなか

在京アイルランド人の友人がサイバーディフェンス企業を創立し、自衛隊・米英軍・大企業を顧客に成功させていて、彼の主催するCIA元教官によるサイバー防衛セミナーを通訳したことがあります。戦闘のスピードは、兵馬の速さ、戦車の速さ、航空機の早さと加速を続け、いまや光の速さで丁々発止だ、という解説が印象に残ります。サイバーテロ、サイバー戦争は、主権国家と大企業が戦士となり、既に常に闘われているのです。「第7艦隊のミッドウエー海戦化」という表現にも驚きました。巡航ミサイルなどを発射した瞬間に、目標を発射した艦船自体に向かわせて、自ら撃沈させてしまうことが可能という事実です。中国がハッキングしてアメリカの発電施設を壊してしまった動画も観ました。

つまり、どこかの国(ないしグローバルな勢力)が武漢の細菌研究施設を操作して、ウイルスを漏洩させることも技術的には可能なのです。私は、とりたてて陰謀論者で

と呼ばれ、体内のマイクロフローラ(微生物相)が私たちの健やかな命に如何に役立ってくれているかは常識になりつつあります。本来、ひかりとしてあらゆるいのちを育んできた大宇宙・地球自然。ヒトのヒュープリス(利己的な傲慢)が「自然法爾(自然ないのちの有り様)」を破壊して来たことだけは間違いないありません。

素直な感謝の裡に、隣人を愛し互助しあってサピエンス(智慧)を発揮して、この一大災厄を「過ぎ越す」ことができるか。大きな問いが突き付けられています。

### 酒生文弥

1956年9月8日福井市篠尾町  
浄土真宗本願寺派浄福寺  
753年創建に生まれる  
1980年3月31日早稲田大学  
政治経済学部卒業  
1982年3月31日(勸学下政経塾  
(第一期生修了)  
1987年3月31日龍谷大学  
院博士後期課程修了(仏教学・  
比較宗教学)  
同大学院から昭和59年9月、  
昭和60年8月カリフォルニア  
大学大学院宗教学研究科人文  
部省奨学生留学  
1986年1月〜12月ニューヨーク  
州立ラトガース大学大  
学院ヘロタリー奨学生留学  
浄土真宗本願寺派 得度(僧籍)  
教師(住職資格 頭座(僧侶最高位))  
光寿院 www.kojin.com/